

(様式第3号)

令和5年8月17日

登米市議会議長 関 孝 様

議員名 伊 藤 栄

調 査 報 告 書

調査の概要は次のとおりであります。

記

1. 調査目的 国指定重要文化財を国宝に格上げするための手順を研修し、旧登米高等尋常小学校が国宝となれるか、その可能性を探るもの。
2. 調査先 宮城県教育庁 文化財課
3. 調査期間 令和5年8月9日 1日間
4. 調査の結果並びに所感 別添参照



政務調査報告

[日 時] 令和5年8月9日(水) 午前11時～午前11時30分まで

[行 先] 宮城県教育庁 文化財課

[対応職員] 文化財課 副参事兼総括課長補佐 金野さよ子 氏
保存活用班 技術補佐 白崎 恵介 氏

[経 費] 3,900円
(内訳) 交通費(車賃代) 3,900円

[調査項目] 国指定重要文化財を国宝に格上げするための手順等について

[所 感]

市内には国指定重要文化財が2件あり、指定を受けてから40～50年経過しています。重要文化財の基準は、①意匠的に優秀、②技術的に優秀、③歴史的価値の高い、④学術的価値の高い、⑤流派的又は地方的特色において顕著となっております。

一方、国宝の基準は、「重要文化財のうち極めて優秀で、かつ文化財意義の特に深いもの」となっています。市内2件の国指定重要文化財は、正に文化財価値の再発見の観点からすれば十分国宝に値するものと思われます。

しかし、国宝認定には自治体等からの申請や受付は一切なく、文化庁の文化財調査官が独自に調査をするということでした。(年間1件認定)

このことから重要文化財の認定以上の価値が求められ、学識経験者等による資料の調査で明らかにし、新たな価値を引き出すことが必要である。国宝認定のハードルの高さに驚きながらも、格上げに向けた可能性について今後も調査・研究を進めていきたい。

(様式第3号)

令和5年8月28日

登米市議会議長 関 孝 様

議員名 伊 藤 栄

調 査 報 告 書

調査の概要は次のとおりであります。

記

1. 調査目的 国宝である旧開智小学校校舎は、松本市を象徴する建物のひとつであり、市内有数の観光施設にもなっている。
松本市が進める本校舎を活かしたまちづくりについて調査する。
2. 調 査 先 長野県松本市
3. 調査期間 令和5年8月17日から
令和5年8月18日まで 2日間
4. 調査結果並びに所感 別紙参照
5. 添付書類 調査先の説明資料



政務調査報告

[日時・行先] 令和5年8月17日(木) 13時30分から15時
松本市立博物館

令和5年8月18日(金) 9時30分から10時30分
旧開智学校校舎

[対応職員] 文化観光部 観光プロモーション課 課長 勝井 裕美 氏
松本市立博物館 館長 加藤 孝 氏
国宝旧開智学校校舎 学芸員 遠藤 正教 氏

[経 費] 54,150円
(内訳) 交通費・宿泊費 49,140円
土産代 3,000円
夕食代 2,010円

[調査項目] 国指定重要文化財を国宝に格上げするための取組について

[所 感]

国内には学校施設の重要文化財が42件ある中で、令和元年度に初めて国宝指定を受けたのが旧開智学校校舎となる。しかし、指定直後は、新型コロナウイルス感染症が全国で蔓延をしたことや、耐震対策工事による長期休館によって、松本城から旧開智学校校舎までの約500mなど、国宝を活用した取組はあまり進んでおらず、現在検討中とのことであった。そこで、国宝に指定されるまでの取組について調査をした。

国宝は、「重要文化財のうち極めて優秀で、かつ文化史的意義の特に深いもの」とされている。市としては関係省庁などに要望など一切行っておらず、むしろ指定の知らせで驚いたとのことであり、平成26年度から4年をかけて行った調査研究の報告書が功を奏したのではないかとのことだった。

調査研究は、文化財研究に著名な学識経験者4名で行われ、

- ・新しい時代の幕開けの中、洋風建築の情報を集めた地元大工は擬洋風という発想で建築し、人々を驚かせ、車寄せには独特の竜などの装飾があり、一見学校とは思えない。(在外公館に見え、中は刑務所、窓が少なく)

- ・建築時には住民から多額な寄付金、また材料なども寺など解体した古材も使用されており、住民と一体となって建築をしたことが垣間見れる。

・竣工年度は明治9年、同時期に国内では多くの学校が建設されているが、和洋の意匠、擬洋風といった近代化の黎明を象徴する最初の学校など、新たな価値を発見した報告書が文化庁文化財調査官の目に留まったと思われる。

このことから、重要文化財が国宝指定を受けるには、まず一からの調査が不可欠である。松本市での研修で重要文化財（学校施設）を抱えている治自体は、国宝と重要文化財のインパクトの差は歴然とあることから、国宝指定に向けて取り組んでいるのではと推察するものである。

なお、松本市には松本城（近世）と旧開智学校校舎（近代）と二つの国宝があり、地方都市で近世・近代の国宝が現存するのは全国を見てもここだけとなっている。